

# 架け橋プログラム だより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。  
架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

Vol.33 に引き続き、Vol.34でも、嶋野先生のお話から、**架け橋期で大事にしたいこと**をお伝えします。今回は子どもの「**見取り**」についてです。  
見取りを深め、一人ひとりの成長につなげていきましょう。

## 見取りとは

★**見取りとは**、外在化、顕在化している事柄をとらえ、これをもとに、内在、潜在している事柄や心情を推しはかり、個別、最適にかかわっていくこと。

★**見取りには浅い・深いがある**

浅い・・・見たらわかる、と思っていると見取りは浅い。見ただけで、あっ、そうかと終わりにすると見取りは浅い。

深い・・・子どもや子どもの行為を肯定的に見ようとする。見ただけではわからない、子どものあらゆる面を見ようとする。

嶋野先生の  
講演より

浅い

- 1 見ただけでやめる人
- 2 その先までわかろうとする人
- 3 肯定的にとらえようとする人
- 4 **価値付けし、成長につなげようとする人**

深い

嶋野先生に  
注目！  
どこで子ども  
を見ているでしょう。

子どもの中に入って、そばに行って、子どもの息遣いや体温を感じながら見えてくることがあります。離れていては見つけられないことが、そばに行くことで伝わってきます。見えてきます。だから、私は、子どものそばに行って子どもたちを見るのです。

## 見取りの営み

子どもへの  
興味・関心

興味・関心をもって子どもと  
かかわる

事実をとらえる

言葉、行動、表情等をとらえる

推測・推量・推察

とらえた事実を推しはかる

解釈

物事や人の行為などを受け止め、  
解釈する。その意味を考える

嶋野先生の  
講演より

保育者・教師の  
**非認知能力**は  
見とり力をあげる

